



Personal MBA

黒田インターナショナル コンサルティング LLC

黒田 毅

経済が需要と供給であるならば、より大きな利益を提供することが、市場においてより受け入れられるのである。

社会との共生は、相互利益における社会への参加、市場への参加において企業は社会とともに未来を得るのである。

新しいゼロエミッション、サーキュラーエコノミーは、人類が生き残る最後の選択なのである。

生産性の向上は利益の向上である。利益構築が企業の生命線なのである。

強い企業体力とは、利益の安定性なのである。

先端性の吸収は、唯一未来を可能とできる選択である。自己の独創性は理解の進歩の結果なのである。

先端性は創造性であり、創造性は企業の正しい企業風土なのである。

価格だけでは、需要は求められない。製品力において需要は可能なのである。

先端性への到達は、企業基準の転換において可能である。

不可能は唯一言い訳であり、行動は全てを可能とする。

計画は実現の基盤であり、意欲は全てを可能とできるのである。

企業倫理性は、湯一正しい経営判断である。それらが正しいがゆえに結果を与えるのである。

自由経済システムは、一切の企業の自由を与えるものであり。ゆえに企業はその選択において自己を得るのである。